

2016.9.5 23:15

【明美ちゃん基金】ミャンマーで外科、内科両チームが治療開始

【ヤンゴン=道丸摩耶】国内外の心臓病の子供たちを救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）の医療団11人が5日、ミャンマーの国立ヤンキン子供病院で心臓病の子供たちの治療を開始した。今回は外科、内科そろっての治療となるため、内科が「外科手術が必要」と診断した患者を外科チームにつなぐなど、連携して治療に当たっている。

3度目となる内科チームでは、治療した患者が50人を超えた。昭和横浜市北部病院の富田英（ひでし）医師（62）は「カテーテル治療ができる若手医師を育てたいというのが現地の希望。手助けしたい」と語った。

50人目の患者は3歳のティン・ティン・カイちゃん 両親「丈夫になって」

医療団の内科チームの渡航は今回で3回目。昨年9月の1回目から数えて50人目の患者となったのは、ヤンゴンの北約45キロで農業を営むフラ・ウエンさん（51）とアニタさん（43）夫妻の4女、ティン・ティン・カイちゃん（3）だった。

2歳になったころ、よく風邪をひくのを不審に思いヤンゴンの子供病院につれて行ったところ、心臓に穴が開いていると診断された。「もらった薬を飲んだら良くなったので、治ったと思って病院に通うのをやめてしまった。後で先生からこっぴどく叱られました」とアニタさん。治療の空白期に症状は悪化し、今年8月には入院。日本チームの訪問を待った。

9人きょうだいの8番目で「おとなしくて手のかからない子。ちょっと人見知りが多い」というティン・ティン・カイちゃん。名前の一部、カイは、「丈夫」という意味だ。

所有する農地は砂が多く、おいしい米や野菜は育ちにくい。子供たちは家業を手伝ってくれるが、将来の展望は開けない。「まずはこの子に丈夫になってもらいたい」。両親はカテーテル治療が終わった娘の小さな手を握った。



50例目のカテーテル治療を受けたティン・ティン・カイちゃん（右）と母親＝5日午前8時56分、ミャンマー・ヤンゴン（安元雄太撮影）